

豊麻神社

豊麻神社の社名がどのようにして命名されたか、はっきりわかっていませんが、豊麻の地名や、昔の下地小学校の名前である豊麻学校と関係していると考えられています。

神社の記録によると、宝暦14年（1764）に千之助という者が、秋葉権現の夢を見て、吉田川を流れてきた小さなほこらを拾い、祀ったのが始まりだということです。

豊麻神社にあるお札によると、「天明4年（1784）2月吉日、秋葉神社勧請」とあるので、この時期に創立されたと思われます。秋葉神社は、旧東海道沿いにあったようですが、明治32年（1900）に、現在地に移転し、豊麻神社と社名を改めました。

旧東海道沿いに建てられた秋葉神社を現在地に移転し、社名まで変えたのは、明治新政府の信仰に関する政策と関係があったと思われます。

昭和7年（1932）に境内を拡張し、昭和15年（1940）に社殿を造営しました。昭和20年（1945）の空襲で社殿周辺は焼き尽くされましたが、不思議と社殿だけは類焼をまぬがれ、今日に至っています。

豊麻神社には、祭神として「火産霊命」（ほむずびのみこと）が祭られており、毎年4月第2土・日曜日に例祭が行われ、土曜日に手筒花火が奉納されます。そして、伝統の「竹もらい」神事は前週の日曜日に行われています。

また、豊麻神社には境内社として、「多賀神社」と「御嶽神社」が祀られています。多賀神社には、「伊弉那岐命（いざなぎのみこと）・伊弉那命（いざなみのみこと）」が祀られていますが、由来については明らかではありません。御嶽神社は山岳信仰の一つですが、その由緒についてもわかっていません。

境内には神社復興造営記念の碑が建てられています。校区の人たちの厚い信仰を得ていることがわかります。鳥居や狛犬にも寄進者の名前が刻まれ、百度石の祈願にも、神社の清掃奉仕者業にも、氏子の願いを見ることができ

